

経営の苦しさがきつかけで

世界初のマイコンが誕生する 1975年

パソコンといえばディスプレイ、キーボード、本体がセットになっていますが、1970年代初めは、キット売りがあたりまえでした。自分でハンダづけし、完成させなければ動きません。プログラムは紙テープに入っていて、紙テープがちぎれないようにゆっくりと本体の記憶装置に入れていきます。コンピュータを動かすまでに行うことがたくさんありました。

ニューメキシコ州アルバカーキのガレージからスタートした会社にMITSがあります。科学教材キットやマイクロプロセッサを売っていましたが、経営がかなり苦しい状態にありました。そこで社長が部下に「君だったら、どんな商品が欲しいか」と聞いたところ、「マイクロプロセッサだけでなく、メモリやキーボードもセットになっていて、ついでに格納できる箱がついていればいいですね」と答えが返ってきました。

じゃあ、それを作ろうと企画して出したのが、世界初の個人向けコンピュータ、アルテア8800です。インテルが作ったマイクロプロセッサにメモリや筐体などをつけ、三三九十七ドルで売り出しました。当時、コンピュータは安いものでも数百万円する時代です。個人でも手に入る値段の組立キットとして発売されたため多くのマニアが飛びつき、売れに売れました。

■マイクロソフト誕生

雑誌『ポピュラー・エレクトロニクス』に新しいマイクロコンピュータであるアルテア8800の紹介記事が掲載されます。『パソコン創世記』によれば、雑誌の記事を読んだビル・ゲイツは、アルテア8800を作っているMITSに電話し、アルテア8800でベーシック（ホビー用）プログラム言語が動くデモをしたいと提案しました。手元にベーシックプログラムもアルテア8800もない状態での申し出で、つまりハタハリです。

当時、MITSにはこの手の売り込みが多く、動くものがあるのならもってこいという返事がかえってきました。返事があったのはよいのですが、アルテア8800はビ

ル・ゲイツが通うハーバード大学にもありませんでした。そこでハーバード大学にあったコンピュータをアルテア8800のように動くようにシミュレーション・プログラムを作り、知り合いのポール・アレン（アメリカ人。ビル・ゲイツとともにマイクロソフトを創業）とともにベーシックを作りあげます。

■ベーシックのデモに成功し飛躍の第一歩に

1975年、ポール・アレンはMITSでデモンストレーションをおこなうためベーシックを収めた紙テープを持ってアルバカーキに飛びます。ベーシックを実際のアルテア8800で動かすのは初めてでしたが、一発で動きました。MITSにいろんな売り込みはありましたが、動いたプログラムを持ってきたところは初めてだったのでMITS側もビックリ。

質の良さを見た社長から「仕上げてくれ」と言われ、ポール・アレンはアルテア8800で完全に動くベーシックを作り上げます。社長は高額で買い取ってくれ、この資金がマイクロソフトの創業資金になります。マイクロソフトはMITSとの取引のためMITSの本社があったアルバカーキで創業します。MITSでは正式にアルテア・ベーシックとして売り出すことを決定。このアルテア・ベーシックが、世界で最初に開発されたマイクロコンピュータ用語となります。

アルテア8800でベーシックが動かせるようになったため、ベーシックを使ってさまざまなソフトを開発することができますようになります。ソフトが充実することで、ますますアルテア8800を買う人が増え、MITSは経営危機を脱却します。ここから現在のパソコンにつながるマイコン文化が始まりました。

マイクロソフトのウェブサイトに歴史を伝えるページがあり、最初の製品として『ポピュラーエレクトロニクス』誌の表紙に掲載されたアルテア8800が載っています。もちろんアルテア8800に入っているベーシックが最初のマイクロソフトの製品です。MITSの事業が順調に軌道にのり、ビル・ゲイツは大学を中退し、経営に本腰をいれま

す。
ここからマイクロソフトの躍進が始まります。

世界初のパソコン「アルテア」は、

スター・トレックに登場する惑星名 1975年

スター・トレックといえばカーク船長、バルカン人のスポック、ドクター・マッコイなど個性的な登場人物が人気を集めました。

日本では「宇宙大作戦」という名前で放映され、「宇宙、それは人類に残された最後の開拓地である」というナレーションで始まります。

日本での吹き替え版では主任ナビゲーターの名前が「ミスター・カトー」。宇宙船に日本人が乗っていると子供心に思ったものですが、原作では「ヒカル・スル」という名前で、日本人とフィリピン人のハーフという設定でした。

『パソコン創世記』によれば、アルテアという名前はMITSの社長が友達の家の新製品の名前を相談に行って決まりました。たまたま友達の名前がSFドラマ「スター・トレック」を見ており、そこに出てきた惑星の名前から名づけられました。「バルカン星人の秘密」という番組で、初めてバルカン星が登場した放映回でした。

沈着冷静なスポックがわけのわからないことを言いだし、診察したドクター・マッコイからバルカン星へ連れていかないとスポックが死んでしまうと報告が入ります。カーク船長は新しい大統領が就任する惑星アルター六号へ向かっていたのを、バルカン星へ進路変更します。

カーク船長が向かっていたアルター六号は日本語吹替版の惑星名で、原作では惑星アルテア (Altair) 六でした。ここから「アルテア」と名づけられます。

マイクロソフト創業は、ビル・ゲイツ二十歳の時 1975年

アメリカのアルバカーキという都市に七つほどのユニットが長屋のように連なっている「Cal-Line」という建物があります。1975年4月4日、ビル・ゲイツがポール・アレンとマイクロソフトを設立した場所、つまりマイクロソフト創業地。

ビル・ゲイツは、まだ二十歳でした。

■アルバカーキにマイクロソフトを創業

MITSへベーシックの売り込みに成功したビル・ゲイツは大学を辞め、ポール・アレンも勤めていた会社を辞めてニューメキシコ州アルバカーキに移ります。MITSがアルバカーキにあったことからマイクロソフトもアルバカーキに設立します。

マイクロコンピュータ+ソフトウェアということでマイクロソフトと名づけられました。マイクロソフトは最初マイクロとソフトの間に「・」が入っていました。



マイクロソフト創業地。かつてユニットの一つが72000ドルで売り出されたことも。(google map より)

設立した時に入居したのが Cal-Linn と呼ばれる長屋のような建物。

以前、アメリカの不動産広告を見ると長屋のユニットの一つが七万二千ドルで売り出され、広告にはマイクロソフトが創業したところと説明が入っていました。

ここからマイクロソフトは世界企業に育ちましたので、確かに縁起がよい不動産物件です。マイクロソフトはMITS以外にもベーシックを開発、提供し飛躍していきます。

■日本の若者からベーシックを売りたいと電話がある

1978年、二十三歳のビル・ゲイツに電話がかかってきました。「マイクロソフトのベーシックを日本で売りたい」。電話してきたのはアスキー創業者である西和彦という人物。ビル・ゲイツより一つ年下なので、当時二十二歳でした。

日本ではソード電算機システム、リコーなどが独自の個人用コンピュータを発表し始め、マイコン黎明期を迎えていました。電話の後、アメリカのコンピュータ見本市で会うことになった二人は同世代ということもあり、すっかり意気投合。ビル・ゲイツは日本市場がどれほどの可能性を持っているのかわかりませんが、日本は西和彦氏にまかせることになりました。見本市の二日後、西氏がアルバカーキを訪れ、アスキーが日本の窓口になることで合意。1978年、マイクロソフトの極東代理店としてアスキーマイクロソフトが設立されます。ビル・ゲイツと西氏はタッグを組み、やがて西氏はマイクロソフト